

■安積良斎 漢学者。江戸で私塾を開き、岩崎弥太郎・小栗忠順・栗本鋤雲・清河八郎らを輩出、吉田松陰にも影響。

あさかごんさい

異学の禁・1790＝ 陸奥国安積郡郡山で、八幡神社神主安藤筑前親重の三男に生まれる。母は寺子屋を開く名主の娘。

松平定信引退1793＝ 3歳：

父から国学を学び、

母方の従兄で二本松藩儒今泉徳輔に勧められて二本松に移るとともに、漢学を学んで育ち、

蝦夷地直轄始1799＝ 9歳：藩命で、江戸の昌平黌に遊学し、八木文琳について学ぶうち、

兄が本居国学を学ぶため伊勢に赴くことになったため、帰郷、

いざノ報復・ 1806＝16歳：兄が伊勢から戻ったことで、母の実家今泉家の婿養子となるがなじめず、江戸に出奔。途中千住で、本所番場の、妙源寺住職と知り合い、その人の世話で、佐藤一斎の学僕となって刻苦勉励、

フェートン号事件 1808＝18歳：

極貧の書生だったので、半紙を買うことが出来ず、反故紙に抜き書きして学んだと伝えられる。

・・・・・・ 1810＝20歳：

ゴロブツ拿捕 1811＝21歳：この頃、林述斎に入門し、

黒住教・・・・ 1814＝24歳：*独立し、神田駿河台のに富士山がよく見える家に自らの別号ともした塾(見山楼)を開いて、書生を教え始めるとともに、安積良斎と名乗る。

なお貧乏で、その家も廃屋に近かったらしいが、友人たちの口を通して生徒は次第に集まり、

杉田玄白没・ 1817＝27歳：

水野忠成老中1818＝28歳：

やがて、二本松藩主の耳にも入って、江戸藩邸で講義するようになり、麹町に(貝坂塾)を開いて移住。

・・・・・・ 1826＝36歳：

富籤流行・・・・ 1830＝40歳：「良斎文略」3巻を著わして、

富籤三十六景1831＝41歳：刊行されて文名が高まり、

滑稽+人情本 1835＝45歳：

・・・・・・ 1836＝46歳：*二本松藩儒になる。

大塩平八郎乱1837＝47歳：この年、モリソン号事件が起こり、開国・攘夷論争が高まると、

適塾オープン・ 1838＝48歳：自らの考えを詩文「大雪行」にまとめ、門人らに筆写させるが、

蚕社の獄・・・・ 1839＝49歳：蚕社の獄が起こると、全てを焼却処分させて難を逃れ、

順天堂始・・・・ 1843＝53歳：藩校教学館の教授となって、故郷に錦を飾る。

天保改革終・ 1844＝54歳：

阿部正弘首座1845＝55歳：將軍家慶の招聘で、再び江戸に出、

国防にも関心を抱き、アヘン戦争に刺激されて、

・・・・・・ 1848＝58歳：開国でも鎖国でも無い考え方で「海外紀略」を著した後、

国定忠治疎・ 1850＝60歳：*ついに幕府儒官となり、佐藤一斎亡き後の昌平黌の官学を支える。

ペリー来航・ 1853＝63歳：ペリーの黒船が来航すると、外国調役として、国書や信任状の翻訳に当たったのをはじめ、

幕末外交多事の時に当たり、しばしば外国書翰和解御用なども務め、

桜田門外変・ 1860＝70歳：直前まで講義をし続けるなか没した。

門人に栗本鋤雲・木村芥舟・楳取素彦・岩崎弥太郎ら。「朱学管窺」「南何余編」「荷子略説」「良斎問話」「良斎閑話続編」「遊豆紀勝」「東省日録」「良斎文略」「良斎詩略」など刊本多数。

「人づくり風土記(福島)」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、